

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぷらネット

第26号



「ヌウちゃん、かわいいね」
ステージへの出を待つ舞台裏で

平成二十六年年度

「障害者週間」市民のつどい

平成二十六年十二月六日(土)
会場：埼玉県障害者交流センター

ホール入口前の通路は、人の出入りが多くなり、両側の販売品が見えなくなるくらいでした。

年の瀬が迫る十二月六日、第十回を迎えた障害者週間「市民のつどい」を開催しました。

天候に恵まれ、会場は今までにない大勢の人の波でにぎわいました。

さいたま市が掲げる「ノーマライゼーション条例」国連総会で採択された「障害者差別解消法」など、障害のある人がない人とともに差別なく生きていくための繋がりを育てていくことを目的に、「市民のつどい」は開催されています。

来場された方々の心に灯った明かりが、いつまでも輝き続けることを願って…

式典

今年、さいたま市「障害者週間」市民のつどいの会場は、埼玉県障害者交流センターで開催となり、毎年このイベントで行われている「心の輪を広げる体験作文」・「障害者週間のポスター」で選ばれた4名の受賞者への表彰状授与が広いステージ上で行われました。

体験作文では、上木崎小学校6年の榎村倭歌さん、作品名「オリジナル手話」と浦和中学校2年の薄井陽香さんの「障害」な清水市長から賞状をいただきました。



大成中学校一年 小峰穂乃花さんの作品



「言葉はいらない」が表彰されました。薄井陽香さんが都合で来られませんでしたが、作品の代読を行い、会場にいられた方皆さんに作品の素晴らしさを伝えることができました。障害者週間のポスターでは、大宮東小学校6年の水谷優里さんと大成中学校1年の小峰穂乃花さんが選ばれました。小峰穂乃花さんの作品では、画面いっぱい躍動感に溢れた主人公が描かれていて迫力感があり、見ている人を釘付けにしていました。

さいたま市障害福祉課

主事 矢部 章

基調講演

今回の「わたりとしお」さんの講演は、久しぶりに講演のプロらしい人のお話を聞くことが出来たと思えました。

講演の出だしが、日本の三大自殺名所の一つが実は意外にも新小岩駅なんですと始まり、なぜ人は自殺をしたくなるのか、誰にでも起こりうるこの問題について、わたりさん自身とご家族の自殺経験から、人はストレスからうつ病になり、自殺をしなくなるかと話されました。学校や職場の人間関係によるストレスと、家族によるストレスも大きいと知り、私自身は知



立教大学の学生さんがプラカードで案内係を……

的障害を持つ息子に対して、理解しきれず、知らず知らずのうちにストレスを与えてしまっていないか、深く考えさせられました。

自らの自殺経験から立ち直り、なぜか新小岩駅近くのマンションに住むことになり、そのマンションでの自殺者を目の当たりにしたという不思議な因縁を持たれるわたりさんに、うつ病で苦しんでいる人を助けるための方法等、いろいろ質問する時間がなくなってしまう、残念でした。

障害者(児)の生活と権利を守る

さいたま市民の会 浅賀 朱美

おたのしみプログラム

みんなで楽しく

ポップクラブ

ポップクラブのみんなにとっ
てはいつもの場所なんだけれ
ど、なんだか雰囲気が違うね。
ドキドキするね。

でも、いざ舞台上がれば、
堂々と大きな声で歌い、お友達



の音を聞きながら合奏できまし
た。終わった瞬間のみんなの笑
顔はとてもすてきでした。貴重
な経験をさせていただき、あり
がとうございました。

さいたま市ダウン症連絡会

佐藤美也子

作品展示

今年作品の展示期間を一週
間にしました。花や風景の写真
手芸の作品など華やかでした。



全国障害者 スポーツ大会報告

十月三十日から十一月四日ま
で、選手十九名、役員二十名で
参加しました。メイン会場は諫
早市にある長崎県立総合運動公
園競技場です。



三日間の大会で、選手たちは今までにない素晴らしい成績を残すことが
できました。来年は和歌山大会です。 報告者 渡辺 浩二

さわやかな歌声を 楽しみました

海老沼小学校の

子どもたちのメッセー

さいたま市肢体不自由児・者

父母の会 泉 千恵子

「ペチカ・たきび・冬景色」

懐かしい冬のメドレーで合唱が始まりました。温かく、力強



くしみじみと一曲一曲が心の奥深く響き渡り、ホールに澄みきった空気が満ちてくるようでした。

「ゆうき」という歌からは、どんな人も限らない可能性を持つているのだという強く生きるメッセー

ジを感じました。子供たちの天使のように清らかな歌声から、文字通り「勇氣」を頂き、改めて歌の力の素晴らしさを教えて頂いたように思います。海老沼小学校の皆様、本当にありがとうございました。

体験！ サウンド テーブルテニス

さいたま市

視覚障害者福祉協会

山崎 道子

「視覚障害者卓球」を多くの方



に知っていたただく為の活動に携わりました。大原中・海老沼小の皆さん四十名の参加を得ました。

短時間の為、満足のいく体験をされたかどうか気になるところでした。しかし一人一人が熱心に話を聴き、アイマスクをし



育成会のビーズ販売もよく売れました。

での実践では、ボールの音に耳を傾け、ラケットを振ってボールに当てた時には、会場から感嘆の声もあがりました。
「難しい」「楽しい」「見えても大変なのに、すごい」等の感想を聞きながら、最後まで楽しく卓球をすることができました。
今後も、一人でも多くの方々に視覚障害者のスポーツを知っていただきたいと願っています。ご協力いただきました皆様
に感謝。

実行委員長として思うこと

昨年の「市民のつどい」終了後、反省会や行政の評価では、参加者が少なかったと指摘されました。

何とかその評価をくつがえし、たくて、実行委員会も行政担当者も懸命に頑張ったといえるでしょう。

障害者協議会の参加団体は、



手話の体験コーナーで開始を待つ海老沼小学校の生徒



手話落語「試し酒」

組織としての元気はつらつさは期待できないのが残念ですが、この催しに来てくださった人たちは、小学生、中学生。ボランティアは、大学生のグループです。ばたばた走り回ったり、大声を上げたりすることもあります。が、スタッフとしては活気を感じて笑顔になります。



お客さまがいっぱいって、うれしい!!

毎年、全国障害者スポーツ大会参加者の方たちが客席の中央に座っているのですが、表彰式が終わると、全員退席してしま

って大きな空席になっていたのですが、今年は「待ってました」とばかりに席が埋まってしまったのです。その後中央がぼかっと空席になる事はなく、順調にプログラムを終えることができました。よかったです。

みなさんありがとうございました!!
来年もまた、がんばれそうです。

実行委員長 浅輪田鶴子



「市民のつどい」参加の みなさんからアンケートを いただきました。

1. 特に印象に残ったものは、なんですか

- 基調講演「命の尊さ・大切さ」
- ダンス・合奏 ポップクラブ
- 全国障害者スポーツ大会報告
- 障害者工賃増額モデル事業報告
- 授産自主製品の販売と模擬店
- 作文表彰の朗読

2. よかったと思った理由

- 「命の尊さ・大切さ」は、心に伝わる講演でした。最後に聞いた曲に感動しました。他に6名の方から共鳴と感動の言葉をいただきました。
- スポーツ大会の結果は、「障害者でもがんばれる」ことを実感した。
- 海老沼小学校の合唱は、レベルの高さを感じた。
- 子供たちが楽しそうでよかった。

3. 意見

- もっと宣伝をしてください。当日友人に教えてもらいました。
- 通路がせまかった。
- 食事をする場所が少ない。
- 飲食物を販売するところへの誘導も欲しかった。
- 磁器ループを設けてほしかった。
- ワイヤレスマイクは、もっと性能のいいものを使ってください。



バス見学会

「相田みつを」の世界と 築地の美味を堪能して

さいたま市精神障害者
家族会連絡会 飯塚 壽美

十二月三日、例年通り県のおぞら号を利用して、国際フォーラム地下にある「相田みつを美術館」と築地を訪ねました。相田美術館では、障害者に理解のある担当者がおもてなしの心いっばいで迎えて下さり、気



相田みつをを記念館承認済

持ちよく観賞できました。しゃれた館内で独自の書体と言葉に向き合い、しばし自問自答をしつつ巡りました。同時に

開催していた高橋まゆみ人形館も見ることができ、ラッキーでした。

「いのちいっばいの自分の花を」「自分が自分にならないで誰が自分になる」の言葉は、各自が精いっぱい生きることだと思いました。

築地の場外市場には、魚介類・つくだ煮類であふれた店舗が並び、いったいどこで買ったらよいのか、どの昼食を選べばいいのか大いに悩みましたが、息子

と友人3人で歩き回り、新鮮な刺身がたっぷり乗った海鮮丼を味わい、土産にはマグロや卵焼き・つくだ煮類を購入して、満足いっばいの散策ができました。

築地の市場は2年後に豊洲に移転するとか、江戸時代から続く東京の台所は、ますます発展しそうです。

帰りのバスの中では、参加して良かったとの声が多数聞こえてきて、私も満たされました。

平成二十六年度さいたま市障害者協議会相談事業

差別つてなに、合理的配慮つて……

阿部一彦氏（東北福祉大学教授）と
増田一世氏（やどかりの里）の対談から学ぶ権利条約

二〇一五年一月二二日、浦和
コミュニティセンター第十五集
が開催された。

会室で、上記研修会が開催され、
阿部一彦さん（東北福祉大学教
授）と筆者の対談形式の学習会
が開催された。

た。

それからちようど一年、改
めて障害者権利条約や差別に
ついて考える機会となった。

障害者権利条約は、障害の
ある人が障害のない同年代の
人と同等の生活を送ることを
権利だとしている。

しかし、実際には障害があ
ることを理由にあきらめざる
を得ないことも多い。

この研修会では、障害当事
者と家族がパネリストとして
自らの体験に基づいた意見を
述べていただき、参加者との
意見交換も交えながら進行。

仙台市で活動されている阿

部さんは、現在仙台市でも差別
禁止条例づくりが進んでいるこ
と、さいたま市のノーマライゼ
ーション条例について関心をも
たれていること、障害のある人
や家族、関係者がどう条例づく



りに関わってきたのかも話題に
なった。

パネリストの日本ダウン症協
会埼玉浦和支部の佐藤美也子さ
んからは、特別支援学級の生徒
たちが過密な教室で授業を受け
ていることなど、障害ゆえに対
応に差があることなどが指摘さ
れた。

精神障害者当事者会ウィーズ
の末吉俊一さんからは、精神疾
患についての自らの体験を交え
て、精神科病院への長期入院の
問題等が提起された。

その後、フロアからの意見も
含めて、自ら声を上げていくこ
と、行動していくことの大切さ
が確認されていた。

障害者権利条約の締約国とな
り、障害者差別解消法も制定さ
れた日本だが、障害のある多く
の人たちがあきらめや我慢の生
活を送っている現実がある。

しかし、障害者権利条約は、
あきらめから脱却して、街の中
でどんな暮らしを誰と送るの
か、そして、孤立しないために
必要な支援を受ける権利がある
と謳っている。障害者権利条約
がこれからの切り拓く道具とし
ていかに活用していくのか、こ
れからのことも含めて考える研
修会となった。

やどかりの里常務理事

増田 一世

みなさん今年もどいぞいぞよろしく

さいたま市障害者協議会新年交流会

パレスホテル大宮
クラウンレストラン

さいたま市手をつなぐ育成会

宮部 幸子

冷たい風が吹いた一月二十八日、パレスホテル大宮クラウンレストランにて新年団体交流会が開催され、育成会から黒澤副会長とともに参加しました。

日頃から加盟団体の皆さまと



は、障害者協議会の会議や催しなどでお会いしますが、各会の連絡事項等が中心となり他の話しをする時間がなかなか持てずいました。今回の交流会では、美味しい食事を頂きながらゆったりとした気持ちでおしゃべりを楽しみ笑い合うことができました。今年始めて参加した黒澤副会長は、くじで特賞をゲットして大いに盛り上がりました。さて、今年九月十六日浦和コミュニティセンターに於て、さいたま市手をつなぐ育成会が初めて主催となる、手をつなぐ育成会関東甲信越ブロックさいたま大会が開催され、このブロック大会を有意義なものにしたいと準備を進めています。

「共に生きる社会をめざして」を大会テーマに据え、障害があっても地域で当たり前前に暮



らしていくために必要な支援と課題を共有し、私たちがすべき事の議論を深めたいと、身近なところから見える「障害者権利条約」を分かりやすく学ぶ大会にしたいと思いました。

開催準備のための事前調査では、予想を大幅に超える参加者数が見込まれ、嬉しい悲鳴を上げながら対応を模索中です。

新年団体交流会では、ごく普通に見られる「女子会」の雰囲気がありました。忙しい日々の合間にお腹も気持ちも満腹になり、暖かい気持ちで帰路につきました。

事務局だより

独身以来、久しぶりに健診を受けることになりました。結果は年齢と共に悪い箇所が増えてしまうのは仕方ないことと半ば諦めることにしました。血液検査で皆さんは、リンパ球を気にしたことがあるでしょうか？血液検査だけは年に何度かしてもらおう機会があります。私はリンパ球が基準値を下回る事が多く、免疫と関係があるようですが、大抵の先生は気にすることは無いといひます。

初めて、リンパ球をとっても気にする先生と出会いました。その先生が言うには、幸せの度合だと私に言いました。リンパ球が多いほど、幸せなのだ：確かに子供ほど、リンパ球は多いようです。その先生が言うには「人の幸せを自分の事のように喜びなさい。そしてたらストレスがなくなつてリンパ球も増えます。」さて、私のリンパ球は増えるでしょうか？

事務局 松澤

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-11

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子